

定温物流特集(1・5~10面)

荷主の時間コスト意識薄い

庭先手待ち問題 解消のすゝめ



岡 卓也氏(おか・たくや) 昭和48年3月15日生まれ、42歳。法大法卒。留学などを経て、平成18年日本能率協会コンサルティング入社。以来、一貫して生産・ロジスティクス領域でのコンサルティング、セミナー・研修講師として第一線で活躍中。

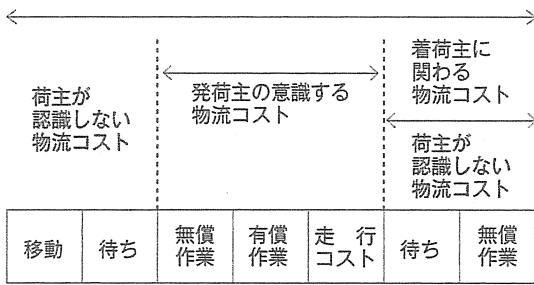
物流センターなど荷主の施設にトラックを長時間止め置かれる手待ちは、物流事業者にとっ

日本能率協会コンサルティング ロジスティクス革新センター 岡 卓也チーフコンサルタント

物流センターなどで起こる手待ちは、物流事業者の時間コストに対する荷主の意識の欠如に由来する。長い間の商慣習で、距離と一部の労働だけで料金を決めてきた物流業界。日本能率協会コンサルティングロジスティクス革新センターの岡卓也氏は「手待ちはなぜ減らないのか。無料だからだ」と指摘。荷待ち解消には、時間も含めた新たな料金設定が欠かせないとする。荷物量と輸送力のバランスがひっ迫しているいまこそ、「交渉のチャンス」(岡氏)だ。(佐藤 周)

業者は身を切る交渉必要

事業者が負担する物流コスト全体



距離別運賃で時間感覚無く 長時間の手待ちの根底にあるのは、「荷主のコスト意識」(岡氏)だ。

氏)。従来の運送契約は荷物を積み降ろす場所間の距離を基準にした料金表で結ばれている。荷主の意識にある運送コストはこれに付帯作業を足した程度。だが実際に運送事業者が負担している物流コストは、センタ―に集荷に向かうまでのコストや集荷時・納品時の待ち時間をはじめ、荷主の意識する物流コストと大きな隔たりがある。タクシーを呼べば当然、待たせている間の料金も計上されるのに、トラックは待たせっ放しても無料。手待ちを助長させている。

荷降ろし時間との差を積み立て、どれだけ時間的コストが掛かっているか明らかにしている。肝心となる、コストを明らかにした上での料金請求では物流事業者も身を切る必要がある。従来の燃料費や時間、手間などを全て運賃に含める。并働定では手待ちは無くなる(岡氏)。改善には、「1つ1つのコストの明示が不可欠だ。」

日々数字報告し理解を促す

物流事業者は荷主と対等に

そこから、粘り強い交渉が求められる。長時間の荷待ちのような深刻な問題は、日々報告する。全体的な話は月ごとに、物流事業者は荷主に交渉する必要がある。それも印象によってではなく具体的な数字によって。それは、「荷主の手待ちに対するコスト意識は希薄」(岡氏)。岡氏は交渉のために、「荷主への通知表を作成してどうにか」と提案する。物流を「見える化」し、手待ち時間や手積み・手降ろし、作業の生産性など荷主の抱えるムダを物流事業者が示す。それによって「荷主を交渉の場に引っ張り出すことができる」(岡氏)。

縦線装飾